

4. 生涯学習施設等／文化芸術施設

◆文化創造センター ala

①施設の防災面の視点

可児市文化創造センター ala は、可児市地域防災計画に係る下位計画である、可児市災害ボランティアセンター設置運営マニュアルにおいて、社会福祉協議会運営によるボランティアセンターの設置場所の第1候補に指定されています。

また、災害発生時に可児警察署が使用できなくなった際に、執務室として施設を使用する協定が締結されています。

そのほか、災害時の優先電話設置場所に指定されています。

②マネジメント基本方針等で示された課題

(※数値等は個別施設計画策定時【R2.12】のものであり、その後変更となっている場合があります。)

◆施設運営に要する費用

可児市文化創造センター ala は本市が所有する施設で最も多くの人を訪れる施設であり、年間30万人以上が来館されています。当施設は規模が大きいため、施設運営に要する費用も多額となっています。そのため、できる限りの支出の抑制を検討することが必要です。

③施設の今後の方向性

◆適切な予防保全による長寿命化とランニングコストの抑制

先進的な取り組みが全国から評価されている文化創造センター ala は、公演やイベント以外にも市内外の多様な人が普段から訪れる市のシンボリック施設です。平成28年3月に策定された「可児市観光グランドデザイン（本編）」においては、質の高い公演、市民参加型の公演等を開催するとともに、おしゃれな空間とすることにより若者を中心に多くの人々が交流する地域一番の人気スポットとすることを目指しています。

基本方針では、令和45年までに当施設に要する費用は約247億円で、そのうち約93億円を建替え費用として見込んでいます。しかし、今後は人口減少に伴う税収の落ち込みにより、その費用の財源確保が非常に困難となるため、より経済的な設備に更新するなど、ランニングコストの抑制に努めます。そのため、適切な短期および中長期的保全計画を策定し、予防保全による施設の長寿命化を検討します。

◆市民利用の優先と利用料金の見直し

市内の利用者により稼働率が非常に高く、ホール等は1年前からでも予約が入るなど、近隣市町村の広域的文化ホールの役割を担っているとと言えます。それにより市民の利用が困難にならないよう、市民利用の優先を検討することも必要です。また、利用料金の見直しにより収入増を検討します。

④ライフサイクルコスト削減の目標

(1) 施設の長寿命化検討

長寿命化による効果はありません。

(2) 施設規模の縮小検討

令和 32 年までに建替えはありません。

(3) 複合・集約廃止の検討

類似施設はありません。

【図 2-4】 縮減イメージ

